茅ヶ崎市自立支援協議会　報告書

標　題	令和８年度　第２回　地域生活支援拠点等整備進化 PROJECT（えぼプロ）会議
日　時	令和８年７月29日（水）１４時００分～１６時００分
場　所	茅ヶ崎市役所分庁舎５階　Ｅ会議室
出席者	■　茅ヶ崎市障害者団体連絡会　茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会　上杉　桂子 ■　茅ヶ崎市障害者施設連絡会　社会福祉法人　翔の会　佐藤　伸 ■　茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会　あいむ湘南　田島　淳一郎 ■　茅ヶ崎市地域作業所連絡会　みらまーる　羽根　由起江 ■　茅ヶ崎市・寒川町ホーム連絡会　リーフホーム　伊藤　久美 ■　茅ヶ崎市障害者施設連絡会　ひざしの丘　柴田　勝一 ■　相談支援事業所連絡会　障害者生活支援センター　田中　有希子 ■　茅ヶ崎市保健所　保健予防課　深澤　雄司 ■　（事務局）ちがさき基幹相談支援センターナル　瀬川　直人 ■　（事務局）ちがさき基幹相談支援センターナル　竹﨑　利恵 ■　（事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課　課長補佐　須田　貴子 ■　（事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課　主任　鈴木　健太 ■　（事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課　主査　鈴木　敦之

司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課　鈴木（健）主任　書記：障がい福祉課　鈴木（敦）主査

１.『えぼサポ』の構築について

事 務 局：資料１を基に概要を説明。えぼプロで協議してきた結果見えてきたこと①～⑧を説明。
えぼプロの今後について、地域生活支援拠点と整備事業促進会議（えぼサポ）（仮）の創設が必要ではないか。参加メンバーについては後ほど意見が欲しい。検討内容や運営内容など協議していきたい。
今回のプロジェクトの中では、資料1の内容を基とした運営体制を小祥していきたいと考えているが、委員から意見が欲しい。

上杉委員：参加メンバーに対してどのようなメンバーを検討するにしても報酬など具体的に決まっていないと、意見が出しにくい。毎回の参加でなくても良いが、定期的に当事者や家族などの参加が出来る仕組みがあると良いと思う。（チェック機能のようなものがあると良い）

柴田委員：多くても少なくても良くない。概ね10名前後が良いと思う。全体会と子部会の形で考えていくのは良いと思う。

羽根委員：拠点コーディネーターの位置づけについても協議を進めた方が良い。この会議体とコーディネーターの関係を明確にした方が良い。

上杉委員：コーディネーターの配置も重要だと思う。強度行動障がいの中核的人材の育成を行うような仕組みを構築しようとしている。この考え方を基に、各事業所におもむいて支援チームの構成が出来ると良い。
長期入所ではなく、地域生活を継続していくための仕組みを考える支援チームがあると良いと思う。

田島委員：一度に全てを行うことは出来ないため、いったんは緊急時の対応に関して焦点化して協議していく方が良い。支援チームの構成が増えていけば、いずれは面的整備としての具体的な機能になっていく。体験利用なども定期的に行えるような仕組みにしておくことで、より実装されていくと思う。

瀬川委員：拠点整備全体の協議を進めてきた中で、課題や機能について見えてきた。面的整備としては、動き出しているため、チェック機能を充実させ、実働出来るようにしていくための会議にした方が良いと思う。

佐藤委員：会議体としては、初動期は順序だてて開催した方が良いと思う。

上杉委員：えぼプロニュースのような、地域生活支援拠点を周知するような媒体をつくっても良いかもしれない。地域ケア会議のような地域の中で協議された課題などを本会議に吸い上げ、本会議内で地域課題について協議するような仕組みになるのも良いかもしれない。

深澤委員：地域生活支援拠点を軸に考えると難しいと思う。地域生活支援拠点を切り口に協議する場は必要だと思う。平常時の延長という位置づけの方が具体的な協議はしやすいと思う。

田島委員：家族のレスパイトを切り口に周知するのもありかもしれない。体験という切り口で進めていくのはハードルが高いかもしれない。

上杉委員：当事者家族としては、親亡き後を見据えた体験利用などは、感覚として重たく感じる。家族視点で考えると、レスパイトのような視点はありだと思う。預けた後に不安定になることも想定し、フォローできるような仕組みがあっても良いと思う。

棚橋委員：預けた後の不穏になってしまうことが心配で家族が面倒を見続けているケースは少なくない。家族の視点に立った案内。レスパイト的な案内の仕方は有効だと思う。

田中委員：構成メンバーの中に茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会も参加した方が良いと思う。施設の加配や自宅での一人暮らし体験など実際に運用開始できるような議論が出来ると良いと思う。促進会議と支援チームの連動性はどのようになるのかがイメージが付かないが、日々の支援チームの協議の中で拠点整備事業との連動性を高めていく事は重要。

上杉委員：コーディネーターは、誰がどのような形で決まるのか？支援チームの中で選出する方法もありではないか？

瀬川委員：コーディネーターは、本会議とのハブ役であったり、支援チームの調整役であったりするもの。

田中委員：コーディネーターの動きは相談支援だけで担うのではなく、様々な職種の方が配置されることが望ましいと思う。

柴田委員：地域包括支援センターとの協働は今後も協議を進めていく必要がある。

２.事業所向け説明会の開催について

事務局：８月から９月頃を目安に登録済みの事業所に向けて事業説明を予定。資料２には、市ホームページ上で地域生活支援事業の周知をしている。この内容だけでは十分ではない。事業所に向けて、改めて安心生活支援事業の説明を行いたいと思う。

佐藤委員：現場レベルでは安心生活支援事業の認識は薄いと思う。緊急の対応に関しては、毎日のように対応している状況。事業をすみ分けて対応しているわけではない。事業所説明会の中では、報酬改定の中で加算との連動を説明することで興味を持つ事業所は増えていくと思う。」

田島委員：説明会の内容の中に具体的な金額や資格の確認などしっかり説明した方が良いい。実態に沿わない事業所などのふるいを考えた方が良い。

上杉委員：登録対象者受け入れに関して、優先的に受けられるような仕組みにして欲しい。

田島委員：医療的ケアの対象の方を受けるときに資格が必要。体制としてはあるが指示を所が無いと受けられない。えぼサポの中で協議し、体験対象者があれば実装するとお互いに準備が進められる。

佐藤委員：医療的ケアだけでなく、特異的なケースの受入れが必要になることも想定し説明した方が、想定外になることが少なくなると思う。

≪配布資料≫

① 次第
② 資料1茅ヶ崎市地域生活支援拠点等整備事業の今後
③ 資料2地域生活支援拠点整備事業

次　回　令和８年９月３０日（水）
14：00～16：00　本庁舎4階　会議室３